

“Metaphors and Butterflies” “比喩と蝶”

遠い昔より、それぞれの文化は物語の形を持って情報、カウンセリング、そして指導等を表現する能力と密接に関連して芸術及び技術を発展させてきました。日本の興味深い歴史を振り返ると、両親による子供を寝かしつける際の物語や、特に伝統的な街頭紙芝居屋さん、そして子供達に紙芝居の開始を告げる2本の拍子木の響き渡る音が思い出されます。

コミュニケーションの手法としての物語の利用は、人間として神経学的にも大変適切なことであります。何が覚えるのに優しいか、細切れの事実の連続か、又は物語の形でこれらの事実をつなぎ合わせたものか。全ての伝統的な情報の根源及び情報伝達の手段として、単純な理由から“物語の茎” (“STORIES STICK”) を利用し、全ての宗教、全ての教育機関、全ての文化等々を支援し、そして彼ら自身、物語を利用し各種促進しているのです。又、物語の組み立ての中には何か、収まっている情報を神経学的にプロセスする能力にぴったりのものがあるものです。

情報を提供するプロトコルとしてのもう一つの物語を利用するメリットは、物語自体はもとより、それを語る人間に対して深い敬意となって現れます。一つの重要な問題は全てのカウンセラーは最終的に如何にして、前向きな影響を彼らのクライアントに与えることが出来るか、といった問題に直面せねばならず、そしてクライアントが未だかつて気付かなかった様々な選択肢という可能性を発見する支援をするかです。それもカウンセラー自身の信念、価値、認識等々をクライアントに被せないで行う事が出来るか否かです。昨年、カウンセラーの皆さんの前で行ったプレゼンテーションの中で、1人の女性がこの問題に関して正確に質問してくれました。彼女の質問は2つの部分から成り立っていました。

- ① 私はクライアントと向き合っている時、不安と同時にやる気充分ですが、どの様にしたらクライアントに対する私自身の認識を課することなく強く交流出来るのでしょうか。そして
- ② クライアントの人生の中での事柄で、もし私自身がそんな経験を積んでいない時にはどのようにその事実を伝えたら良いのでしょうか。

これらは素晴らしい質問であり、そして誠実さということに対して深く、適切な関心を現わしています。そしてクライアントのことを真剣に考えている様子が伝わってきます。幸運なことに、一つのこれらの質問に答えるものとして比喩の利用があげられます。

比喩を利用する以下のメリットを考慮下さい。

直接的なコミュニケーション（カウンセラーが、クライアントの生活の中で挑戦的な態度に対して反応するかもしれない事柄に対して直接的に話しかける。）の場においてカウンセラーは何がクライアントにとって適切な行動かを熟慮し、述べるでしょう。カウンセラーもクライアントもクライアントにとって何が有効なアクションかを明確に理解している場合、時として、これは完璧に受け入れられ、クライアントの満足のいく変容へと導かれるでしょう。しかしながら他方ではクライアントに対する直接的な関わり、即ちカウンセラーの明確なる指示に従うというプレッシャーは、単純にクライアントに対して更なるプレッシャーを掛けるに等しい行為かもしれません。この行為はクライアントに対して更なる負荷を掛けることとなり、カウンセラーが最も忌み嫌う手法です。

そしてここで物語を使用するメリットが出てきます。カウンセラーが、クライアントの人生の中で新しい、より満足しうる選択肢を支援するために考えられた物語、クライアントにうまく組み立てられた比喩を告げる時、クライアントは注意深くカウンセラーのその物語を聞き、クライアントである彼もしくは彼女はその物語の解釈に努めます。ここには直接的なコミュニケーションはありません。カウンセラーはどの物語の時点を捉えてもカウンセラーが何かを助言したり、カウンセリングを提供したりすることはありません。カウンセラーは単純に物語を話しているだけなのです。クライアントに要求される態度は**聴く**ことに徹することです。そして**聴く**ことによって自然に湧き起こってくる無意識のプロセスによって全ての物語の中より、クライアントが抱えている課題に関連した物語の部分のみを選択するのです。言い換えるならば敢えて曖昧な、そして漠然とした表現をすることでクライアントの無意識な心に働きかけ、物語の適切な部分をクライアント自らが抽出します。全てそれらの目的の為に無意識で応答し、そしてそれ故、局面に関して新しい展望が手に入れられ、そしてそれらに反応するための新しい選択肢を働かせることが出来るのです。

この感覚から、比喩は直接的なコミュニケーションよりも遥かに丁寧なアプローチであり、カウンセラーはクライアントに対し一切の助言、カウンセリングは致しません。むしろ素晴らしく練り上げられた物語の構成及び提供をすることで、カウンセラーはクライアントの無意識な状態に近づき、クライアントの無意識から可能な判断をする能力を作りあげます。クライアントに対して助言はしませんし、クライアントに対する指示につながるようなカウンセラーの要求もありません、認識の押し付けもありませんし、意見または価値に関しては物語の中に存在、単純に可能性を解放する連続を提供、そしてクライアントの無意識をダンスに誘うのです。ダンスではクライアントの無意識は物語によって提供され、彼らの無意識が反応を必要とされ、且つ意識の枠外で、メロディー及びリズムの該当する

部分だけを選択します。クライアントは何をすべきかを意識して決断する義務というトラブルに見舞われることはありません。そのような選択は無意識下にて生じ、そしてクライアントは彼らの新しい選択を、適切な文脈の中で新しく且つ効果的な、そして創造的な選択と共に活動することを自身で見出した時、彼らの新しい選択に関して認識し始めます。

カルメンと私（ジョン・グリンダー）の3日間のワークショップを通じて、参加者は次のような3つの技術を習得出来ることでしょう。

- ① 如何にクライアントへの選択の幅を提供する比喩を構成するか。比喩を構成する3つのモデルに関して、私どもの管理の下でのエキササイズを提供し、参加者は比喩を創造することが出来るように指導されます。
- ② 如何にクライアントの無意識なプロセスに接触、比喩を提供するか、そして変容のプロセスを起こすため、比喩の中から無意識のプロセスを通じて選択を行うことを試みます。
- ③ 如何に生まれつき存在する比喩、クライアントの無意識のプロセスの中で既に捨て去られたものを再発見、そして活用し、彼らの人生でのより効果的な選択肢を創造するかを探求致します。

もし時間が許すならば、上記に加え、カルメンと私は“生ける比喩”、大きなグループにメッセージを届けるのに大変有効的な比喩を提供したいと願います。

本年5月に皆様方とお会いできることをカルメンと私（ジョン・グリンダー）共々大いに楽しみにしております。今回も3日間を通して昨年の通訳を担って頂いた広瀬由美子さんに重責を担って頂きます。どうぞ貴方の様々な時間軸、場所からの比喩、貴方自身及び貴方の人生を強く、前向きにする効果のあった、例えば貴方の友人から提供されたもの、恩師から、映画から、そして演劇、を是非我々と一緒に検討するために持参下さい。

それでは5月にお会い致しましょう。

Carmen Bostic St. Clair and John Grinder